
とっても甘い風邪薬

瑠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とっても甘い風邪薬

【Zコード】

Z0473A

【作者名】

瑠

【あらすじ】

（7歳時の話です）蘭が風邪をひいてしまって、薬を嫌がる蘭に、お見舞いに来た新一は……

(前書き)

ちび新蘭のお話です。一人とも七歳、小五郎さんと英理さんはまだ同居中の頃のお話……

(注：口ナンは「世紀末の魔術師」の時に誕生日を迎え、1歳だけ歳をとったという事になっています。小説自体には、なんの影響もありませんですが、どうぞご承ください。)

昔々、といつてもそんなに遠くない昔、十年前のお話、そう、ちょうど「コナン君」と呼ばれている少年（じつは青年）が本当に「コナン君」の歳、つまり七歳だった頃……

「ヒツ……クシコン！……クシャン！……おかあちゃん、のびがいたいよ……クシコツ。」「あら、蘭。お風邪ひっちゃつたみたいね……あなた、どうします？」

「風邪薬飲ましとくしか無いだろ……。」
「あらあら、蘭ちゃんはどうやら風邪をひいてしまったみたいですね。」
「やつぱり昨日半袖で寝かせたのが悪かつたのかしら?」
「だらうな……。結構冷え込んだもんな。俺達でも寒かつたんだ。」
「蘭、寝相悪いしね……。」

「蘭、お薬よ。はい、アーンして？」

蘭ちゃんのお母さんである英理さんが、スプーンに注いだ赤色の液体をもつてきます。が……

「蘭? ほら、お薬。」
「いやあつー。」
「どうしたの? ほら、飲まないとお風邪、治らないわよ。」
「いやつたらいやなのーー。」

どうやら蘭ちゃん、風邪薬を嫌がってるようつです。でもそれでは、風邪は治りません。すると…………？

「ひあん……だいじゅつがかつ？」

「英理、蘭ちゃんのお見舞いに来たわよ♪♪」

「こや毛利君、久しぶりだなあ。」

蘭ちゃんのお友達である上藤新一君との両親がお見舞いに来てくれました。

「らんつ……」

「ふえつ……しんいつか……」

「英理、蘭ちゃんはどうなの？」

「それが……蘭、薬を飲んでくれないのよ。」

『えつ……』

「らんつ、くすりをのまなきやダメだよ？」

新一君は優しく蘭ちゃんを諭します。といひが……

「こやなの。おくすりのみたくなつ……」

「…………らん？」

「じつしつむ……こやなの……」

「ひそ……。」

「じつしつ、らんねおくすりのみたくないんだ？」

新一君が蘭ちゃんに薬を拒む訳を聞いています。すると……

「だつて……『ローロロツヒ』、のみにへつし……それと、にがい

んだもん……。」

とこり訳だそうです。

「蘭、これは子どものお薬なの。だから、甘くでもあるのよ。それ

なら飲めるでしょ?」

「うん……でもお。」「

やつぱつ、「飲みにへこ」のが嫌だそうです。あると.....?

「うーん……」

英理さんがこりと微笑んでいます。しかし、とても怖そうなオーラがただよっています。

おねえちゃん、らんのおぐすりかしてちょいだい?」

「新一君？……まあ、気を付けなさい。こぼさない様にね。」
新一君が蘭ちゃんのお薬を借りました。そして……？

『 『 あつ！？』

なんど、薬を口に呑んでしまいました。そして蘭ひやんに近づくと

「おひ？」
「あひひ…」
「新ちゃん、やるわねえ… >>」
「ああっー？」のクソ坊主、蘭に向すんだー。」
蘭おひんと歯を重ねたのです。

んつ

やがて、二十秒程経過した時、新一君はやつと蘭ちゃんから離れた。一人の唇には、赤い薬が付いていて、まるでリップグロスを塗った様。

それに、赤いのは唇だけではありませんでした。二人とも、熟れた
リンゴのようになつています。

やがて、新一君が先に口を開きました。残った液体を舐め取ると、

「――――うん、」れでちゅんとおへやつのめただろ?――――
「うん……」――――

「おとせぐわつねむだこじめいがる。さひととおおねじりおせり

「ありがと、しんいか。ひとつもあまかっただよvvv」

二人ともとっても幸せそう。それを見ていた四人の大人たちは、こんな事を考えていましたそうです。

「うふふ、蘭ちゃんがウチの娘になつてくれる日も、そう遠くないかも、」

「蘭、幼馴染が相手だと苦労するわよ……」

「ほう、なかなかやるな。さすが私の息子だ。」

「くそう、俺の蘭を……」

四人ともに共通していた考え方、十五年後の一人の姿…おそらく同じだったでしょう。

後日談：

次の日、蘭ちゃんの風邪はすっかり治っていました。「お薬」が効いたのでしょうか。効果抜群だったのは、どっちの「お薬」かな……？

そして、工藤宅から、まだ小さな男の子のクシャミと共に、「あら、新ちゃんまでお風邪ひいちやつたみたい。蘭ちゃんにうつされたのかしら……？」

なあんて女性の声が聞こえてきたのはまた、別のお話。もうすぐ、暖かい春が訪れる事でしょう。

あれから十年経ち、今、一人は十七歳。「初めてのキス」から十年後、「二人の幸せ」から少しだけ寄り道をしているようです。でも、「雨降つて地固まる」ですものね。きっと、「幸せ」はそう遠くないはずです。

そして五年後、昔々の大人の「妄想」が現実となるのはどうやら、これも間違いないようです。

これ以上無いほど幸せそうな、白い礼服に身を包んだ若い男女の晴れ姿……。

「工藤新」、並びに毛利蘭、貴方達はこれから一生、死が一人を引き離すまで、健やかな時も病める時も、助け合い、愛し合い、共に生きていく事を誓いますか……？

『はい、誓います。』

白いチャペルの下、大きな彩々のブーケ、微笑む若いカップル……

暖かい春は、すぐそこです。

(後書き)

（作者よつへ

ちび新蘭です。これが初小説です。つまり処女作です。笑って
やってください。

感想をお書きになつて頂ければ、天にも上るほどの気持ちにな
るはすです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0473a/>

とっても甘い風邪薬

2010年10月10日06時36分発行